

厚生労働科学研究費補助金

(地球規模保健課題解決推進のための行政施策に関する研究事業)

「国際保健分野における取り残された課題の分析及び我が国の国際保健施策の立案に資する研究
ーアジアにおけるジェンダー及びグローバル・ケア・チェーンの国際比較の視点から」

令和7年度 分担研究報告書4

「東アジア、南アジア、東南アジアのリプロダクティブヘルス、社会開発、政策からみる課題：
人口ボーナス期ステージに着目して」

研究分担者 岩澤美帆 国立社会保障・人口問題研究所

研究要旨

近代化に伴う人口転換の過程では、現役世代の人口に比べ、年少人口や高齢人口といったケアが必要な人口が相対的に少ない、それゆえ経済発展に有利な時代（人口ボーナス期）が一時的に経験される。この人口ボーナス期について、東アジア、南アジア、東南アジアにおいては、すでに経験した国と、これから経験する国が混在している。2024年の国連推計によると、ポスト人口ボーナス期を迎えているのは12か国、プレ人口ボーナス期にあるのが16か国であった。ポスト人口ボーナスを迎えている国の多くは少子化が深刻であるが、プレ人口転換の国においても一部の国では少子化が始まっている。少子化を念頭においた政策議論も始まっている。本研究では、生殖に関わる具体的状況および民主化や自由、社会内での結びつきといった社会開発の状況を、人口ボーナス期のステージの違いに注目して観察した。

リプロダクティブヘルスに関わる指標は、妊産婦死亡率や避妊実行率など、近代化にともなって、緩やかに改善するものが多いが、民主主義指標や人生の自由度、幸福度などの主観的ウェルビーイング指標は国の差異の分散が大きく、悪化しているものなども少なくなかった。また、頼れる人が周りにいるかといった指標は、ポスト人口ボーナス期地域よりもプレ人口ボーナス地域のほうが低い傾向があった。経済発展が主観的ウェルビーイングの向上を伴っているかは家族形成にも影響する重要な側面である。とくに民主化指標や主観的ウェルビーイング指標が急速に悪化しているの多いアフガニスタンやスリランカ、イランといった国については、リプロ指標の改善が芳しくなく、社会の弱者により大きな負担がかかっている可能性もあるため、丁寧に分析していく必要があると指摘できる。

近代化に伴い、リプロダクティブヘルスの指標は緩やかに改善する国が多いが、民主主義指標や人生の自由度といった側面では国による差異が大きい。リプロダクティブヘルスの向上を、ウェルビーイングを伴ってどう発展させるかが、残された課題であると言えよう。

A. 研究目的

近代化に伴う人口転換（出生率、死亡率の低下による人口増加と高齢化）は、人口ボーナス期という生産年齢人口が相対的に多い状態を生み出す。経済成長に有利となるこの時代は、女性への教育投資も進み、女性が雇用労働者化するなど社会における役割が変化する。先進諸国で経験されたこうした変化は、人口転換期にあるアジアの一部の国でも今後経験されることが予想される。ジェンダーの変容は、人口転換と

いった人口レジームとも深く関わっている。そこで、東アジア、南アジア、東南アジアの28か国について、人口転換の過程を確認し、人口ボーナス期を経験した地域、これから経験する地域に分類した。昨年度は、人口学的指標やGDP、女性の労働力率などの社会経済的指標、そして女性の政治的参加指標などジェンダーに関連する指標の推移を確認した。本研究では、これらを踏まえた上で、さらに生殖に関わる具体的状況および民主化や自由、社会内での結び

つきといった社会開発の状況を、人口ボーナス期のステージの違いに注目して観察する。

B. 研究方法

まず、各国の人口ボーナス期を特定する必要がある。データは国連の World population prospects 2024(UN DESA)の年齢別人口を使って、従属人口指数(= (0~14 歳年少人口+65 歳以上高齢人口)/15~64 歳生産年齢人口)を算出する。そして、人口ボーナス期を迎え、ポスト人口ボーナス期に入っているポスト人口ボーナス地域、従属人口指数が反転していないプレ人口ボーナス地域に分類した。

人口ボーナス期分類別に、リプロダクティブヘルスに関わる状況、民主化およびウェルビーイングに関わる状況として、以下の指標を取り上げ、各国・地域を比較した。

リプロダクティブヘルスに関わる状況として、妊産婦死亡の生涯リスク、女性の静態平均初婚年齢(SMAM)、避妊実行率、生殖補助医療の利用状況を比較した。民主化およびウェルビーイングに関わる状況として、民主主義指数、人生の選択における自由の認識、政治とビジネスにおける汚職認識、社会的支援の状況、寄付経験にもとづく寛大さ、健康寿命、幸福度スコア(主観的ウェルビーイング)、ポジティブな感情、ネガティブな感情を比較した。

C. 研究成果

妊産婦死亡率については日本は極めて低い水準であるが、人口ボーナス期を迎えていてもモンゴルは高い水準にあることがわかった。またプレ人口ボーナス期地域は、生涯の出産機会が多いことも相俟って、生涯の新産婦死亡リスクが高い。その中でもアフガニスタン、パキスタン、東ティモールでは低下傾向にはあるものの高い水準が続いている。静態初婚年齢は香港、マカオ、韓国などを除いて全般的に低い。バングラデシュでは19歳となっており、女性の教育の機会が確保されていない可能性がある。ポスト人口ボーナス期では晩婚化により高年齢でも追加出生意欲が続くため避妊実行率は高止まりしている。プレ人口ボーナス期では避妊実行率の上昇が続いているが、東ティモール、アフガニスタン、モルディブの避妊実行率は2割前後と低い。生殖補助医療は近年中

国での報告数が増えているが、再生産年齢女性当たりの数値は日本が高いことがわかった。

民主化指標は、ポスト人口ボーナス期地域でもプレ人口ボーナス期地域でも分散が大きい。前者では中国、イラン、ベトナムで低く、後者では北朝鮮、ラオス、アフガニスタン、カンボジアで低い。人生選択の自由は、モンゴル、韓国、イランで低く、香港で急激に下がっている。日本はポスト地域の中では中間の水準で、タイやベトナムで高い。人生選択の自由は少子化の動向においても重要な指標である。政治やビジネスにおける汚職認識は、シンガポール、香港を除いて、多くが日本より高い。頼れる人がいるかの指標は、日本は高い方で、プレ人口ボーナス期地域で分散が大きい。アフガニスタン、バングラデシュ、パキスタン、インドで低い。経済力調整後の寄付経験で測定した寛大さは、日本以外の国で高く、モンゴル、イラン、タイ、ミャンマー、インドネシアで高く示された。健康寿命は日本が最も長いが、ポスト人口ボーナス地域でモンゴル、ベトナムで低く、プレ地域ではアフガニスタン、パキスタンで低い。幸福度は、ポスト地域で日本より高いのは台湾、シンガポール、タイであり、中国、モンゴル、ベトナムは近年伸びている。スリランカは低下している。アフガニスタン、バングラデシュ、インドで低下傾向にある。ポジティブな感情経験については日本は相対的に低い。同様に中国、モンゴルで低く、シンガポール、マカオで高い。プレ人口ボーナス期地域では、カンボジア、ラオス、ミャンマーで高い。アフガニスタン、モルディブ、ネパールで低い。一方ネガティブな感情はイランで高く、スリランカで上昇している。そしてプレ人口ボーナス期地域では多くの国で上昇している。開発が進む一方で様々な衝突やテンションの高まりが始まっている可能性もあり、これらがリプロヘルスや出生行動にネガティブな影響を与えないかを注視していく必要がある。

D. 結果の考察

リプロダクティブヘルスに関わる指標は、妊産婦死亡率や避妊実行率など、近代化にともなって、緩やかに改善するものが多いが、民主主義指標や人生の自由度、幸福度などの主観的ウェルビーイング指標は国の差異の分散が大きく、悪化しているものなども少なくなかった。

また、頼れる人が周りにいるかといった指標は、ポスト人口ボーナス期地域よりもプレ人口ボーナス地域のほうが低い傾向があった。

E. 結論

近代化に伴い、リプロダクティブヘルスの指標は緩やかに改善する国が多いが、民主主義指標や人生の自由度といった側面では国による差異が大きい。リプロダクティブヘルスの向上を、ウェルビーイングを伴ってどう発展させるかが、残された課題であると言えよう。

経済発展が主観的ウェルビーイングの向上を伴っているかは家族形成にも影響する重要な側面である。とくに民主化指標や主観的ウェルビーイング指標で急速に悪化している項目の多いアフガニスタンやスリランカ、イランといった国については、リプロ指標の改善が芳しくなく、社会の弱者により大きな負担がかかっている可能性もあるため、丁寧に分析していく必要があると指摘できる。

G. 研究発表

1. 論文発表

岩澤美帆(2025)「加速する出生減のメカニズムと少子化のゆくえ」『統計』11月号, pp.4-12. (査読無し)

岩澤美帆(2026)「日本の人口」林玲子監修・国立社会保障・人口問題研究所編著『人口と社会—データで読み解く世界と日本』日経印刷, pp.23-40.

2. 学会発表

IWASAWA Miho, YODA Shohei(2025)
“Classifying Unmarried Individuals in Japan: The Intersection of Economic Base, Intimacy Base, and Marriage Desirability”, The 30th International Population Conference (IPC2025) (Brisbane)(2025.7.13-18)

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし